

## 参議院本会議・代表質問で「ワンヘルス」が議論されました !!

令和6年10月8日（火）、参議院本会議が開催され、福岡県選出の松山政司参議院幹事長は、自民党の代表質問で「ワンヘルスに関する取り組み」について、石破茂内閣総理大臣に質問されました。



石破茂総理



松山政司議員

### 【松山議員：質問】

コロナ禍による健康被害や経済的損失の大きさを考えれば、人、動物、環境の衛生に関わるものが連携をして取り組み、ワンヘルスという取組みは極めて重要であります。昨年の広島G7、G7サミットに続いて今年のプーリアサミット（イタリア）の首脳コミュニケでも、このワンヘルスの枠組みでのAMR、薬剤耐性に関する記載が盛り込まれました。我が国でも、人事共通感染症への取組みが広がっています。

福岡県では、ワンヘルス推進基本条例が制定され、アジア獣医師会連合（FAVA）ワンヘルス福岡オフィス（FOF）も開設されました。

みやま市では、ワンヘルスセンターの整備が進められています。

感染症対策や環境保全、人と動物の共生社会づくり、そして地方創生のために、アジアの玄関口である福岡県でのこの取り組みを政府においてももしっかり後押しすべきと考えています。

そこで、我が国における人事共通感染症対策、そしてワンヘルスに関する取り組みをどのように進めていくお考えでしょうか。総理にお伺いをいたします。



石破茂総理



松山政司議員

### 【石破総理：答弁】

人獣共通感染症対策について、お尋ねをいただきました。

人獣共通の感染症につきましては、人の病気等に注目するだけではなく、人、動物及び環境という分野横断的な課題に関係者が連携して取り組む、ワンヘルスの考え方に総合的に対応していくことが重要であります。

議員のご地元でもあります福岡県におきましては、地域の関係者とともその推進に積極的に取り組んでおられると伺っております。

次の感染症対策への備えを着実に進めるため、本年7月に改定した「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」にもワンヘルスアプローチの推進を盛り込んでおり、こうした考え方に基づき、人だけではなく動物分野も含めた関係機関による監視の強化、分野横断的対応の推進などにより、人獣共通感染症の脅威に対応してまいります。

### 【G7プーリア首脳コミュニケ】 2024. 6. 14

#### <保 健>

我々は、低中所得国におけるものを含め、気候変動、生物多様性の損失及び汚染の3つの地球上の危機により悪化する、薬剤耐性（AMR）及びその他の保健の課題を引き続き深く懸念している。2024年9月のAMRに関する国連総会（UNGA）ハイレベル会合に先立ち、我々は、低中所得国のニーズを擁護し、根拠に基づいたパネルがAMRに関する行動をとり続けるためのマンデートと共に行動を活性化させる具体的な目標とターゲットを含む、野心的な成果文書を支持する。

我々は、感染予防及び管理措置を探求及び実行し、また、抗菌薬の使用及び消費量のサーベイランスを含め、抗菌薬の慎重かつ適切な使用の管理を実施することにより、ワンヘルスの枠組内でAMRに対抗するため、不可欠な抗菌薬への公平なアクセスと統合的な行動を推進し続ける。我々はまた、新たな抗菌薬、その代替品及び診断法の研究開発を加速させるため、プッシュ型及びプル型のインセンティブを実施し、官民パートナーシップを支援し、革新的な手段を模索する。

（一部抜粋）

2024年10月10日

福岡ワンヘルス協議会・事務局